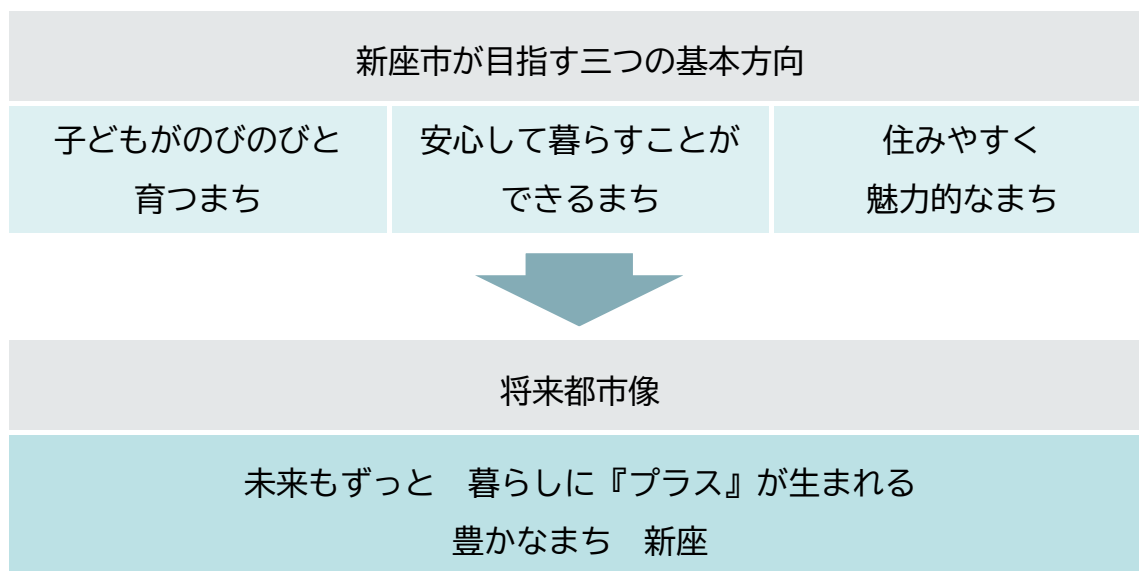


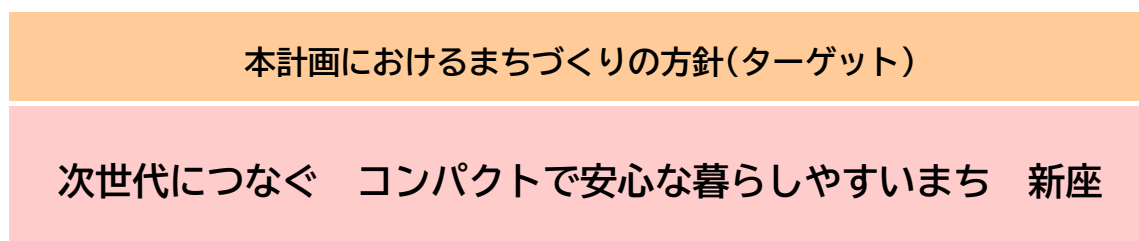
## 第3章 まちづくりの基本方針と目指すべき都市の骨格構造

### 3-1 まちづくりの方針(ターゲット)

本計画の上位計画である第5次新座市総合計画では、本市が目指す3つの基本方向を定め、市の将来都市像を以下のように定めています。また、新座市都市計画マスタープランにおいても、この将来都市像を共有しています。



これを踏まえ、人口減少が進む中でも都市の持続性を確保するという本計画の目的を考慮し、本計画におけるまちづくりの方針について、次のとおり定めます。



立地適正化計画が目指すのは、世代を超えて生活に欠かせない医療・福祉・教育・商業サービスや公共交通網が今後も維持され、防災面でも安心して暮らせるコンパクトシティの実現です。

そのためには、行政だけでなく、市民の皆さんや事業者の方々など本市に関わる全ての人々が、次世代につながるまちづくりを考えていくことが必要です。

## 3-2 誘導方針

2-2で整理した都市構造上の課題に対し、その解決に向けた誘導方針を以下のとおり定めます。

課題解決のための誘導方針	
まちづくりの方針（ターゲット） .. 次世代につながるコンパクトで安心な暮らしやすいまち 新座	<b>居住</b>
	<b>都市機能</b>
	<b>公共交通</b>
	<b>防災</b>
	<b>将来構想</b>
	<p><b>1 緩やかな集約に向けた取組の着手と、暮らし続けられる生活環境の整備</b></p> <p>人口減少が大きく進む段階に備え、災害リスクが高いエリア等を中心に、緩やかな集約に向けた意識醸成や制度づくりを進めます。</p> <p>また、子どもから高齢者まで快適に暮らし続けられるまちの実現に向けて、本市の高い交通利便性と貴重な自然が共存する地域特性を活かしつつ、脱炭素社会を見据えた効率的な都市基盤の充実を進め、居住の誘導を図っていきます。</p>
	<p><b>2 都市機能の集約化による各拠点の利便性・滞在快適性の向上</b></p> <p>拠点ごとの位置付けに応じて、医療・福祉・子育て・商業施設や、行政サービス施設、文化施設などを誘導し、都市機能の集約化を図るとともに、公共施設の複合化等による機能強化を推進することで、拠点の利便性を高めます。</p> <p>また、各拠点について滞在快適性の向上に取り組み、にぎわいと魅力に満ちたまちの実現を目指します。</p>
	<p><b>3 各地域から拠点へ、また、拠点間でアクセスしやすい公共交通網の維持</b></p> <p>拠点間のアクセスを確保するため、既存のバス路線の見直しや交通結節点における機能向上等により利便性の向上を図り、公共交通の利用者増とサービス水準の維持の好循環を目指します。</p> <p>一方で、担い手不足によるサービス縮小を見据え、民間バス路線ではカバーできない地域の交通を補完する手段として、新たな交通手段の導入等により市内各地域から拠点への移動を確保するほか、環境負荷の低減に向けたシェアサイクルの充実等の取組も検討します。</p>
	<p><b>4 都市基盤の強化や市民の防災意識醸成による都市防災力の向上</b></p> <p>今後高い確率で発生が予想されている巨大地震や、これまでの想定を超えた降雨による水害への対策に加え、火災発生の際に延焼する危険性の高い住宅密集地の改善に向けて、都市基盤の強化や市民の防災意識の醸成に取り組み、都市防災力の向上を推進します。</p>
	<p><b>5 将来構想を踏まえた段階的なまちづくり</b></p> <p>都市構造の大きな変化を伴うプロジェクトについては、今後の進捗状況を勘案しつつ、本計画における拠点や誘導区域等の設定について見直しを行うなど、段階を踏まえたまちづくりを検討します。</p>

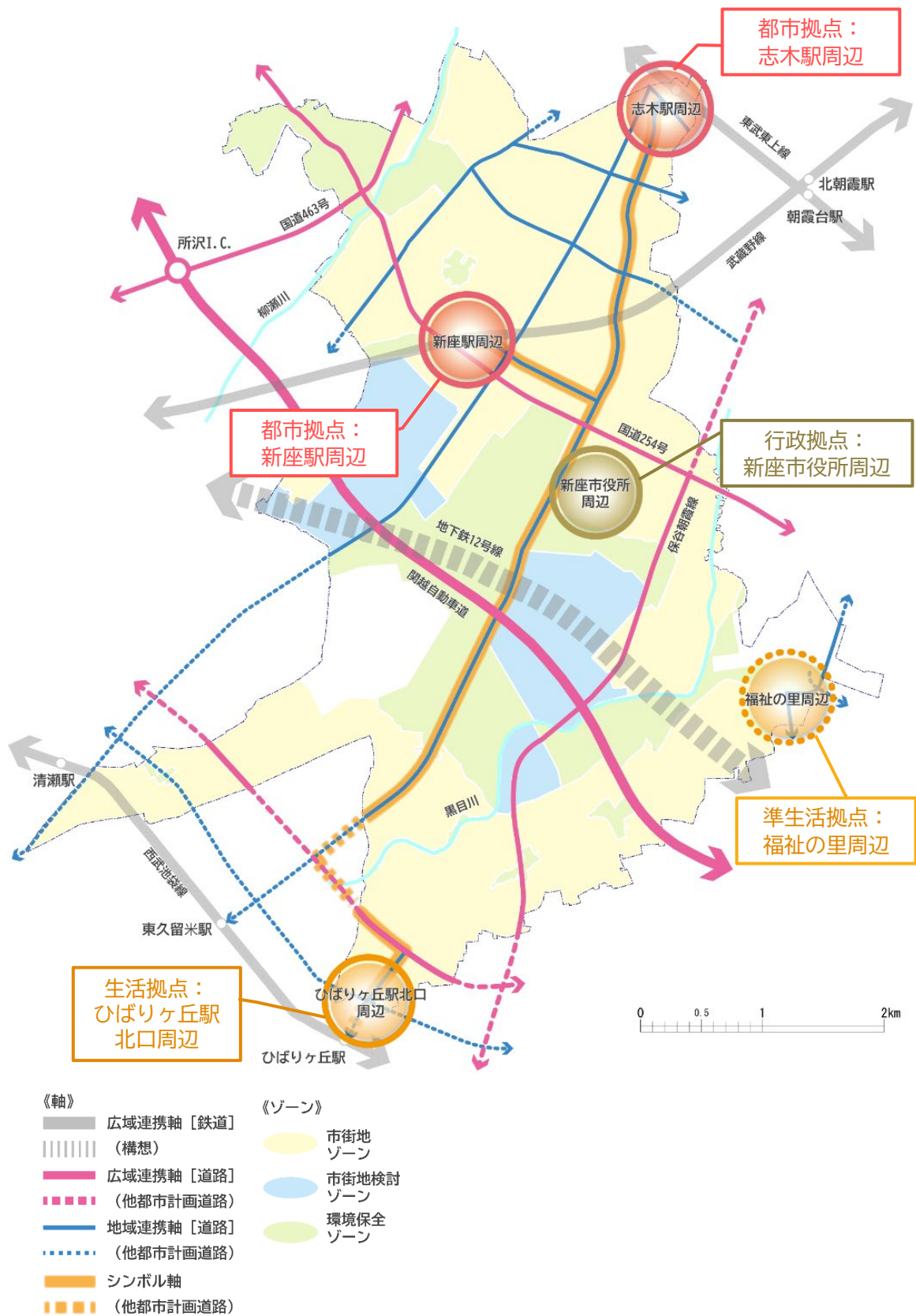
### 3-3 目指すべき都市の骨格構造

立地適正化計画については、都市計画マスタープランと一体的なものとして作成することが求められています。そこで、本計画における目指すべき都市の骨格構造については、P.3に掲載する新座市都市計画マスタープランに定めている将来都市構造図を踏まえ、都市拠点、行政拠点、生活拠点に加え、福祉の里周辺を準生活拠点として設定します。

なお、各拠点の特性や都市機能の集約性、また、目指すべき方向性を踏まえ、都市機能誘導区域を設定します。(→都市機能誘導区域の設定については、P.92以降を参照)

拠点名	拠点の概要	各拠点の特性	目指すべき方向性
都市拠点 志木駅 周辺	東武東上線の志木駅を中心とする一帯。多くのバス路線の発着点である。多くの市民が利用する公共施設や病院、銀行、大型商業施設が集積している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅周辺</li> <li>・特に高い人口密度</li> <li>・都市機能の集積</li> <li>・生活利便施設の立地</li> <li>・基幹の公共交通の結節点</li> <li>・都市基盤の充実</li> </ul>	既に高度な拠点性を有していることから、今後もこれらの都市機能を維持することで市北部の居住者の生活を支えるとともに、様々な都市活動の促進を図ります。
都市拠点 新座駅 周辺	J R 武蔵野線の新座駅を中心とする一帯。多くのバス路線の発着点である。広域幹線道路である国道254号の沿道にあり、複合公共施設や商業施設、医療施設等が集積している。また、駅北側では土地区画整理事業が進められている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅周辺</li> <li>・高い人口密度</li> <li>・都市機能の集積</li> <li>・生活利便施設の立地</li> <li>・基幹の公共交通の結節点</li> <li>・都市基盤の充実</li> <li>・区画整理事業による人口流入の可能性</li> </ul>	新座駅北口の土地区画整理事業の進捗に合わせ、今後の新たな人口や都市機能の集積が期待されるなか、市中央部の中心地として更なる機能集積を目指します。
行政拠点 新座 市役所 周辺	市役所庁舎や市民会館、中央図書館など行政・文化施設が集積している。多くのバス路線が通過している。また、にいバスの全てのコースの乗り継ぎ地点となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い人口密度</li> <li>・都市機能の集積</li> <li>・生活利便施設の立地</li> <li>・公共交通の結節点</li> </ul>	市全域から市民が集まる行政・文化施設の立地を活かし、今後もこれらの機能の維持と充実を図ります。
生活拠点 ひばりヶ丘 駅北口 周辺	西武池袋線のひばりヶ丘駅に近接しており、市内でも特に人口密度が高い地域のひとつである。市を縦断する幹線のバス路線が通る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅周辺</li> <li>・特に高い人口密度</li> <li>・生活利便施設の立地</li> <li>・都市基盤の充実</li> </ul>	隣接市の施設立地も踏まえながら、南部の高い人口集積を支える都市機能の維持を図ります。
準生活拠点 福祉の里 周辺	福祉の里や出張所を含む公民館、大型商業施設が立地しているほか、にいバスにより新座市役所やひばりヶ丘駅へのアクセスが可能となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市機能の一定の集積</li> <li>・生活利便施設の立地</li> </ul>	地域住民の生活を支える都市機能の維持及び誘導を図ります。

図 目指すべき都市の骨格構造



資料：新座市都市計画マスタープランにおける将来都市構造図を基に作成